

令和4年度 因島北認定こども園の取組

1 因島北認定子ども園教育・保育目標

『心も身体もたくましく健やかな園児の育成』

(1) 感じる力・気付く力をつける

身の周りの自然、人、出来事などに心が動き、興味を持って関わる中で、その面白さ、不思議さ、心地よさ、辛さ、悲しさ、優しさなどを感じ取る力

(2) うごく力をつける

自分のやりたいことへ向かって、心と身体を積極的に働かせて取り組み、自分の体を自由にコントロールして遊んだり、状況に応じて適切な行動をとったりする力

(3) 考える力をつける

やりたいことを実現するために、必要物や情報などを集めたり、実現するための方法を考えたりする力

(4) やりぬく力をつける

困難や失敗があってもあきらめず、自分の気持ちを立て直し、『やればできる』という気持ちを持って、粘り強く取り組み、やり遂げる力

(5) 人と関わる力をつける

表情や言葉を通して、互いの思いや考えを伝えあったり、折り合いをつけたりしながら、多様性を受入れ、様々な人との良い関係を築く力

2 各年齢の目標

年齢	目 標 (数字は1の項目との関連)
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○快適な環境に配慮し、安心して過ごせるようにする。 ○一人一人の生活リズムを大切にして、生理的欲求を促す。 ○特定の保育者との愛着関係のなかで、情緒の安定を図り、健やかな成長を育む。(1)(2)(3)(5)
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の甘えや欲求を十分満たし、ゆったりとしたかかわりのなかで安心して過ごせるようにする。 ○身の回りに対する興味や関心を大切にし、保健的で安全な環境のなかで、十分探索活動ができるようにする。 ○保育教諭が仲立ちとなって一緒に遊び、友だちとのつながりが楽しめるようにする。 ○保育教諭や友だちのまねをすることや、食事・着脱・排泄など身のまわりのことを自分でしようとする気持ちを大切にす。 <p style="text-align: right;">(1)(2)(3)(5)</p>
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭に受容され、安定したかかわりのなかで自分を表現しながら、保育教諭や友だちをモデルとして育つ。 ○簡単な身の回りのこと(食事・排泄・着脱・睡眠など)が、自分でできる。 ○からだを使ってのあそびや表現することを楽しむ。 ○保育教諭を仲立ちとして、言葉のやりとりを楽しんだり友だちとかかわって遊ぶことを楽しむ。(1)(2)(3)(5)
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者との信頼関係をベースにして、集団生活の心地よさを感じる。 ○身の回りのことができるようになったことに喜び、自分でしようとする。 ○友だちと関わるなかで、相手の気持ちに気づいたり、一緒に遊ぶことの楽しさを知る。 ○生活に必要な言葉がある程度わかり、自分の思いや感じたことを言葉で伝えようとする。(1)(2)(3)(4)(5)
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○身についた習慣を確かめながら、自分でできる喜びを持ち、生活していく。 ○認め合い励まし合うなど関わり合う関係を広げ、集団で行動することを楽しむ。 ○いろいろな活動を通して、経験したことや思っていることを聞いたり、話したりする。 ○生活や遊びを通して、達成感を味わい自信をもって行動する。(1)(2)(3)(4)(5)
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○自分でできることの範囲を広げながら、基本的な生活習慣が身につく。 ○仲間の一員としての自覚をもち、意欲的・創造的に生活やあそびに取り組む。 ○豊かな感性が育ち、思いや言葉で表現したり、人の思いも考えながら行動する。 ○社会生活に必要な習慣や態度が身につき、主体的に行動する。(1)(2)(3)(4)(5)

3 評価項目の達成及び取り組み状況

A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが成果は十分でない D：取組が不十分である

	評価項目	内容	結果	説明（前期）
1 子どもの発達援助	① 発達援助の基本	○一人一人の園児の発達状況に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行い、その結果に基づき指導計画の見直しを行う。（P D C A サイクル）	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発達や課題などに応じて指導計画を作成し、担当職員で共有しながら指導を進めることができた。 振り返りを担当同士で話し合うことでつぎの活動に生かすことができた学年もある。 計画の提出が遅れることで、振り返りがタイムリーにできないことがあった。また、振り返ったことを改善につなぐことができにくかったこともある。
	② 健康管理・食育	○一人一人の実態に応じた健康管理を行う。 ○食育年間計画を基に、意欲をもって食にかかわる経験を積み、食事を楽しむ子どもに育てる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で記録していただいた健康観察カードや登園時の検温、保育中の観察等、健康状態を把握し対応した。 菜園活動や行事食等も活用して、日本の伝統文化について触れさせる等食に興味関心が持てるように取り組んだ。 給食委託業者との連携の在り方について見直しをしながら進めてきた。
	③ 教育・保育の環境と内容	○園児が安心して安全に過ごす環境を整える。 ○園児が自主的に活動できる環境の工夫をする。 ○園児一人一人を受容し理解を深めた働きかけや援助をする。 ○地域の教育力を活かした教育・保育内容を構築する。	A B	<ul style="list-style-type: none"> 保育室のパーテーション(壁)を整備し、子どもが落ちていて過ごせる環境づくりを進めた。 安全点検等で安全が懸念される箇所が見つかった時にはすぐに対応していった。 低年齢児では、園児が様々な感覚を味わえるような遊びの工夫をしたり、幼児では自ら選んで遊べるように準備したりすることで遊びが広がる工夫をしてきた。 気になる園児への支援に向けて関係機関とも連携しながら取り組んできた。 今年度は、囲碁教室、おはなし広場、音楽鑑賞、手洗い指導、卒園茶会等、地域の教育力を活用した活動を増やしたが、地域の方と触れ合いながらの活動は十分ではない。
2 小学校との連携	① 園・小連携、接続	○アプローチカリキュラムをもとに取組を進める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとのアプローチカリキュラムを個人懇談で配布し、保護者にも意識してもらうようにしている。内容の見直し・改善をしていくことも必要である。
		○小学校との連携を円滑に行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 小中と連携した職員研修を実施することができた。 小学校との交流活動を無理のないようにカリキュラムで計画されたものを活用して進めることで、5回実施できたこと、小中との合同体育遊びの実施は大きな成果である。子ども同士が繋がること、職員間の連携・接続が小学校への架け橋となるように充実させていく。
3 子育て支援	① 保護者との信頼関係	○保護者との連携や情報交換を行いながら教育・保育に関する理解を得る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 参観・懇談、日々の連携等で子どもの様子を丁寧に連携してきた。 園だより、園長だよりの発行、掲示物等を活用して園の取組についての思いを発信してきた。取り組んでいることの内容や意味、保護者と共に考えたいことをどのように伝えるかは課題である。
	② 地域の子育て支援	○地域の子育て家庭への支援を行う。	C	<ul style="list-style-type: none"> 一時保育は行っているが、地域の子育て家庭への支援は休止している。今後の方向性も未定である。
4 子どもの安全	① 危機管理	○事故や災害、不審者に適切に対応できる体制づくりを進める。 ○食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づき適切に実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の避難訓練や交通安全指導、保健衛生指導の実施と振り返り、ヒヤリハットをもとにした必要に応じての研修や取組を行った。 感染症等の予防として、保育室の清掃、換気、玩具の消毒等を定期的の実施しているが、学年によってばらつきがあった。日頃からの衛生管理、環境整備を進めていくことを続ける。
5 運営管理	① 組織運営	○保育・教育目標に基づき、職員が意識統一のもと協働する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 主任が中心となり組織の運営を進めることができた。 ミーティングや担任会議、ケース会議、学年会議の場で情報共有、方向性の確認等ができた。しかし、職員の共通認識や互いに高め合うための研修の実施が難しい。次年度に向けての課題である。
	② サービス管理	○サービスに係る研修を充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿った研修と必要に応じた研修を行うことができた。保育教諭としての保育・教育の振り返りは定期的の実施し、取組の充実、職員の資質向上を図る。

4 第三者委員からの目標や計画の総合的な評価結果と今後の課題

結 果	理 由
A	<ul style="list-style-type: none">• 適正に評価されている。(評価の仕方はこの方向でよい)• Cの項目もあるが、様子を見たり報告を聞いたりしてみて、Bでもよいと思う。• 「幼児期に育みたい5つの力」の評価は、3歳児、4歳児などは、それぞれの到達したい目標(段階)を設定して、それに対して評価してもよいのではないか。(そうすることでより効果的な取組にもつながるのではないだろうか)• 「子どもの育ちをつなぐ」こと。一人の子どもの今をみて、何が必要かを考えることはとても大事なことだが、どのように育っていくのか、どのように育ってほしいのか、そして今育まれていることを次につなぐことが、その子の将来に向けて必要であるという視点を持たなければならない。そのために、こども園は小学校を意識すること、小学校はこども園を意識することをしてほしい。• 研修を大事にすること。個人によってちがうからこそ学び合うことができる。そのための場づくりが必要である。